



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 見えない作業に対する夫と妻の認識：家事育児をめぐる夫妻ペア調査の結果報告                                              |
| Author(s)        | 孫, 詩彥                                                                             |
| Citation         | 教育福祉研究, 27, 1-11                                                                  |
| Issue Date       | 2023-10-11                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/90601">https://hdl.handle.net/2115/90601</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 010-0919-6226-27.pdf                                                              |



# 見えない作業に対する夫と妻の認識 —家事育児をめぐる夫妻ペア調査の結果報告—

孫 詩 彥

## 1. 調査目的と分析枠組

家事や育児には、「料理・掃除・洗濯」、「寝かしつけ・おむつ替え」などのほかに、名前すら付けられていない「見えない作業」がたくさん存在する。本稿は、「i 役割遂行を可能にする作業」、「ii 役割を遂行する作業」、「iii 役割遂行後の後始末的作業」の枠組で、見えない作業を取り入れて家事育児の遂行を分析し、夫と妻の双方を対象とするインタビュー調査の結果を整理した報告である。

2021年に実施した「料理役割の分担と遂行に関する調査」の結果報告（孫 2022a）では、夫妻106組のペアデータを用い、料理役割の分担と遂行について分析した。その結果、料理役割の分担の状況、料理役割の量と質に対する、夫と妻の認識が不一致であることが分かった。夫妻のそれぞれは、異なる基準で役割の遂行と分担を判断・解釈している可能性が示唆された。この点に対するさらなる検討を行うため、家事育児の遂行を捉える分析枠組を見直し、夫妻ペアのインタビュー調査を実施した。本稿は、その結果を報告するものである。

孫（2022a：4）が料理役割という一つの家事項目を検討する際に、「調理」という役割遂行の作業そのもの以外に、「献立を考える」「買い物」などの調理を可能にする作業と、「食べ残し処理」「料理器具や家電の管理」などの後始末的な作業に項目を細かく分けていた。これらの項目は、夫か妻の片方しかやっていないことが多い。また、実際こうした項目が誰かによって遂行されているものの、夫妻双方がその項目を料理役割として認

めているわけではない、といった結果が調査で示された。つまり、そもそも夫と妻が認識している家事や育児の範囲が異なり、夫妻の片方のみ遂行している作業は、相手にとって気づかれにくいものである。

こうした相違を生み出すにあたり、本稿は「見えない作業」の存在に注目し、これらの作業が夫と妻にどのように捉えられ、評価されているかを検討する。「見えない作業」は具体的に、3種類に分けられる。一つ目は、感知・思案などの脳内シミュレーションが他人に観察されない、なおそうした感知・思案の結果、観察可能な作業が実行されていないかもしれないこと。そろそろ夏だから子どもの夏服を出していこうと思うこと自体は何かの行為として観察されるわけではない。加えてまだ肌寒いからもう少ししばらく待とうと、いろいろ思案した結果、夏服はとりあえず出さないと判断して結果的に何も役割遂行の作業を実行していない。このように感知・思案という作業は行われていたものの、当人でさえ気づかない可能性がある。二つ目は、空間や時間の分離で物理的に見えていないこと。別の部屋にいる相手が何をしているか分からない、相手が子どもを連れて遊びに出る間に何をしているか分からない、という意味で、分からないから相手が担った作業の量や質を認識しにくい。三つ目は、なぜやる／やらないか、その意義が理解されないため、作業自体が観察可能な行為であっても、作業の価値が認められていないこと。毎日台所周りにはねた油を拭いておかないと後からべたつきが掃除しづらくなるにもかかわらず、毎日の拭き掃除は単なる「水増し作業」と位置付けられてしまう。ところが、従来の研究

で家事や育児といった役割遂行を捉える際に、遂行の時間、頻度、項目にのみ焦点を当てており、前述した見えない作業が夫と妻の認識に及ぼす影響が十分検討されていなかった。

孫 (2022b : 23) では、家事や育児を遂行する活動そのものを「一次的家庭役割」と呼んだうえ、そうした役割に付随する活動や役割の遂行を可能にした活動として、「二次的家庭役割」の存在を指摘した。この「二次的家庭役割」は、本稿で捉えようとする見えない作業と重なる。この見えない作業を議論することは、夫と妻の認識の不一致を理解するためになる。紙幅の都合でこの分析枠組を導き出す議論は別稿に預けるが、本稿では操作的に、次の三段階に分けて役割遂行を捉えなおしてみたい。なお家事や育児はつながる一連の作業である性格から、この三段階の作業も実際は連続性を持つものと、説明しておきたい。

i 役割遂行を可能にする作業：この段階では、自分や家族員のニーズを感知して、応答するかしないか、どう応答するかを考えること、人間関係の調整や遂行するための材料や環境を用意することなどが含まれる。具体的、1)「何をするか」を把握する感知・思考作業と、2)「どのようにするか」を考えて手配するマネジメント作業があげられる。

ii 役割を遂行する作業：この段階では主に実行作業であるが、誰かと分担することや、実行の範囲と程度を調整することも含まれる。この段階の作業が従来の研究が注目する役割遂行と重なるが、特徴として実行の頻度や内容がある程度決められており、特定の時間に行われることも多い。これらの作業が個人に担われる場合、他の家族員にとって見えない作業になりやすい。

iii 役割遂行後の後始末的作業：この段階では、役割が十分に遂行されなかったときの補強加工、本来の担い手が機能不全になったときの代替などが挙げられる。この段階の作業は他律的で、家族員の状況や他人に分担された役割遂行のいかんによって調整しつつ行われるものである。その価値が度々見逃され、「見える作業」として十分に認

められないかもしれない。また iii は役割遂行の連続性において、i と重なることもある。

本稿は次章から調査概要を説明し、第3章で以上の分析枠組を用いて見えてきたことを整理する。第4章ではインタビューのデータで、i から iii における見えない作業の具体像を示しながら検討を加えていく。

## 2. 調査概要

本調査は、日本と中国両方の都市部で実施したものである。保育施設の協力を得て、保護者に調査の依頼書一式を配布し、同意を得た方に半構造化インタビューを実施した。調査は夫と妻を分けて行い、基本情報のほかに家庭内の役割分担、家事や育児の量と質に関する理解と認識、自分が役割を遂行していくときの困難や工夫、相手の役割遂行の状況、役割遂行に関する交渉や調整などを中心に聞き取った。調査は「北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査」の承認を得たものである。調査の実施と分析は研究倫理規定を遵守する。

また、日本調査は日本北部のX市で、2022年3~4月に12名の夫妻を対象に実施した。中国調査は中国南部のY市(2022年10月~11月)とZ市(2023年3月~4月)で行い、22名の聞き取りをした。両方の調査から共通して見えてきたのは、夫も妻も、「阿吽の呼吸」や「以心伝心」が表すように、わざわざ言わなくても共に暮らしている二人が分かり合えると考えている。そのため、家事や育児について、いつ何をやるか、個々の作業の細かい手順など、あまり話し合うこともないまま暮らしてきた。一方、祖父母からの協力を得る時や家事代行サービスを利用する時、これまで夫妻間で十分言語化されていなかった見えない作業の部分が、祖父母や家政業者と役割分担の調整を行う際に浮かび上がりやすくなる。つまり、夫妻を中心とした家事育児に第三者が関わることで、そのやりとりから夫と妻が見えない作業を気づきやすくなるかもしれない。調査では比較的に中国のほうが保育施設のほかに託児サービス、家

事代行サービスが充実し、調査時点で意図的に祖父母と同居・近居し、日常的に家事育児の協力を得られた事例、隣人同士の親しい付き合いで子どもの送迎や週末の行楽をとにもする事例が多い。見えない作業は本人すら気づかない可能性を考え、本稿はそこを焦点にあてて分析できるよう、比較的に第三者とのやりとりも多い中国調査を用いて検討する。

22名・11組の基本情報は下記表1で示している。

### 3. 役割遂行の三段階でみる夫と妻の家事育児

本稿では、調査データの録音を文字化し、役割遂行を三段階に分けて捉える分析枠組のもとで分析した。それぞれの段階にある作業を、夫と妻のどちらが、どのように担っているか、相手が担っている作業をいかに認識しているかなどを整理し、表2にまとめた。

役割遂行を三段階で捉える本稿の分析枠組は、家事や育児を実行すること自体にだけ注目するわけではない点が最大の特徴である。役割遂行を可

表1 調査協力者のプロフィール

| No. | 年齢 | 学歴   | 年収  | 現職 | 勤務時間                     | 残業状況     | 休日  | 同居家族・末子年齢             | 別居の協力者        |
|-----|----|------|-----|----|--------------------------|----------|-----|-----------------------|---------------|
| A妻  | 42 | 大学   | 5   | 専門 | 7:30-16:30               | 月 20H    | 土日  | 娘 2・4 歳               | 家事代行          |
| A夫  | 41 | 大学   | 20  | 管理 | 8:30-17:30               | 月 10H    | 土日  |                       |               |
| B妻  | 35 | 大学   | 0   | 離職 | -                        | -        | -   | 娘 2・3 歳               | なし            |
| B夫  | 41 | 大学   | 30  | 専門 | 9:00-18:00               | 月 10 日出張 | 土日  |                       |               |
| C妻  | 34 | 大学院  | 30  | 営業 | 9:00-17:30               | 月 10H    | 大小休 | 娘 1・5 歳<br>妻側祖母       | 家事代行          |
| C夫  | 38 | 大学院  | 50  | 専門 | 8:30-17:30               | 月 40H    | 土日  |                       |               |
| D妻  | 31 | 大学   | 20  | 専門 | 9:00-17:30               | なし       | 日月  | 娘 1 息子 1・5 歳          | 夫側祖父母         |
| D夫  | 34 | 大学   | 40  | 専門 | 9:00-18:00               | 月 10H    | 土日  |                       |               |
| E妻  | 34 | 大学院  | ×   | 事務 | 8:30-17:30               | なし       | 土日  | 息子 1 娘 1・2 歳<br>夫側祖父母 | 妻側祖父母         |
| E夫  | 33 | 大学院  | ×   | 専門 | 8:30-17:30               | 不定       | 土日  |                       |               |
| F妻  | 32 | 大学   | 20  | 専門 | 不定                       | 不定       | 不定  | 息子 1・5 歳<br>夫側祖父母     | 妻側祖父母         |
| F夫  | 34 | 大学   | 10  | 専門 | 不定                       | 不定       | 不定  |                       |               |
| G妻  | 33 | 大学   | 20  | 管理 | 9:00-18:00               | 月 20H    | 大小休 | 息子 1・6 歳<br>妻側祖母      | 家事代行<br>夫側祖父母 |
| G夫  | 34 | 大学   | 20  | 管理 | 9:00-18:00               | 月 30H    | 大小休 |                       |               |
| H妻  | 47 | 大学   | 20  | 専門 | 7:30-16:30               | 月 20H    | 土日  | 娘 1 息子 1・6 歳<br>夫側祖母  | 家事代行          |
| H夫  | 47 | 大学   | 25  | 専門 | 8:00-16:30               | 月 20H    | 土日  |                       |               |
| I妻  | 35 | 大学   | 20  | 事務 | 8:30-17:00               | なし       | 土日  | 娘 1・4 歳               | 夫側祖父母         |
| I夫  | 35 | 中等専門 | 200 | 経営 | 自己裁量                     | なし       | 土日  |                       |               |
| J妻  | 32 | 大学   | ×   | 専門 | 在宅勤務                     | なし       | 土日  | 息子 1・3 歳              | 家事代行          |
| J夫  | 32 | 大学   | 20  | 専門 | 9:00-17:00               | 月 12 日出張 | 土日  |                       |               |
| K妻  | 35 | 大学   | 16  | 専門 | 9:30-17:00               | なし       | 土日  | 娘 1・2 歳               | 夫側祖父母         |
| K夫  | 40 | 大学   | 14  | 専門 | 8:30-15:30<br>8:30-17:30 | なし       | 土日  |                       |               |

注：「年収」は人民元で万元単位。

「×」は回答拒否、「-」は非該当。

「大小休」は隔週で休日が1日に短縮される休暇制度、すなわち2週間で休みが3日になる制度である。

表2 役割遂行の三段階でみる夫と妻の家事育児

|   | i 役割遂行を可能にする作業 |     | ii 役割を遂行する作業 |        | iii 役割遂行後の後始末的作業 |       |
|---|----------------|-----|--------------|--------|------------------|-------|
|   | 家事             | 育児  | 家事           | 育児     | 家事               | 育児    |
| A | 妻              | 妻   | 妻＞夫＞第三者      | 妻＞夫    | 妻                | 妻     |
| B | 妻              | 妻   | 妻            | 妻＞夫    | 妻                | 妻     |
| C | 妻              | 妻＞夫 | 第三者＞妻        | 夫妻     | 妻＞第三者            | 妻＞夫   |
| D | 妻              | 妻＞夫 | 妻＞夫          | 妻＞夫    | 妻                | 妻     |
| E | 妻              | 妻＞夫 | 第三者          | 夫妻＞第三者 | 第三者              | 夫妻    |
| F | 夫＞妻            | 妻＞夫 | 第三者＞夫        | 夫妻     | 妻＞第三者            | 妻＞夫   |
| G | 妻              | 妻＞夫 | 第三者＞妻        | 妻＞夫    | 妻                | 妻＞第三者 |
| H | 妻              | 夫妻  | 第三者＞妻        | 夫妻     | 妻＞第三者            | 妻     |
| I | 夫              | 妻＞夫 | 夫＞妻          | 夫妻＞第三者 | 夫                | 夫＞妻   |
| J | 妻＞夫            | 妻＞夫 | 妻＞第三者        | 妻＞夫    | 妻                | 妻     |
| K | 夫妻             | 妻＞夫 | 夫＞第三者        | 夫＞妻    | 妻                | 夫妻    |

注：「第三者」は、祖父母や家事代行を意味する。

「夫妻」は夫と妻が共に担っている。「＞」の左側は、この段階の作業を主に担う者。

能にする作業や遂行した後の後始末的な作業は、家事育児労働としての重要な価値と意義を持つに加え、これらの作業を考慮しないと夫と妻の間の役割分担を柔軟に調整することや代替することも論じられないからである。

表2の整理から、次のことが分かる。

まず、今回の調査協力者である夫は、夫妻のペア調査に協力してくれて、普段から家事育児に積極的である方たちである。にもかかわらず、夫の役割遂行はiiを中心にみられ、iとiiiの作業は妻に偏ることが多い。

そして、夫の役割遂行は、育児のほうによりコミットしている。これは日常生活から子どものニーズを把握し、子どものために何がいいかを感知・思案するiの作業や、子どものための後始末、子育てのセーフティーネットになるiiiの作業も、夫がその一部を担っている。

最後に、実行作業そのものであるiiに、第三者の分担・代替がみられる。特に家事について、一部の事例において第三者による役割遂行は、夫や妻の遂行よりも重要であることが分かった。この結果はとても興味深いものである。つまり、これまで家事育児の諸作業において最も根本的で第一

義的な存在として思われる遂行行為そのものが、iとiiiの作業が整っていれば実は一番代替されやすい作業でもある。これは間接的に、なぜ夫の役割遂行がiiに集中していることかというも説明している。しかしひっくり返せば、第三者による役割分担・代替は、iiの作業しかできない可能性も考えられる。iとiiiは、家族生活を営む「責任者」でないと担えないかもしれない。

以上のように本稿が用いた分析枠組で新たに示されたのは、いわゆる夫と妻、男性と女性が家事育児分担における不平等は、(多くの場合)妻＝女性が役割を遂行する時間の長さや担当する作業の多さ、頻度の高さという従来の図式に加え、(多くの場合)夫＝男性は家事育児からより自由になれることである。iからiiiまでの作業はつながる一連のものであるにもかかわらず、(多くの場合)夫＝男性はその一部であるiiの分担しかしていない。iの心が折れる思案やマネジメントをせず、役割がうまく遂行されていない時にiiiのリスクも背負わずにいられる。片方が常に相手から役割遂行の指示がないと動かない、相手に細かくわかりやすい指示を要求することや、片方だけが気ままにやりたいことだけをやっていられることは、夫

と妻の関係が不平等であることを示している。ところが残念なことに、i と iii の重要性和、夫妻の関係に潜むこのアンバランスを、調査では夫も妻も十分意識していないらしい。

#### 4. 夫と妻が語る家事育児の作業

前章はすこし抽象的な語り方で、三段階の役割遂行で見える夫と妻の家事育児の全体像を描いた。本章では、それぞれの段階において夫と妻は互いの役割遂行をいかに語り、解釈しているか、見えない作業がいかに i から iii までの役割遂行をつなぎ、夫と妻にどのように認識されているかを、インタビュー調査のデータを用いて具体的に示していく。調査は中国語で行ったため、以下の引用は翻訳したものである。Q は調査者からの質問を意味する。

##### (1) i 役割遂行を可能にする作業

第1章で述べたように、役割遂行を可能にする作業は主に、いつ、何をするか感知・思案することと、役割遂行を可能にするための準備を整えるマネジメントがあげられる。この作業をすべて妻一人に背負わせる場合、夫は妻の指示で動かされることになる。ただし、下記 A 夫の語りが典型的に示したように、感知・思案の作業自体は見えるものではないものの、それを行うための負担が十分認識されており、かつ A 夫はそれから逃げようとしている。A 夫に、普段どのような家事をしているかと聞くと、茶碗洗いやモップかけをしていると答えた。これらの作業はどのタイミングで実行するかとさらに確認してみたところ、次の答えがあった。

A 夫：「基本はお母さんが任務を配分してくれるので、言われた通りにすれば…。」

Q：「なぜこのような進め方にしたのですか、自らこう、自主的に家事をやりとうしますか？」

A 夫：「このスタイルがいいというか、楽

ですね。いつ何をするかとか、あれこれ考えずにやるだけで済むから、楽ですね。」

Q：「A 夫さんがやったことに対して、A 妻さんはだいたい満足しますか？」

A 夫：「うん、不満のときもありますけど、基本は満足かなあ。クオリティが不満なときはありますね、そっちの基準値が私より高いから。そっちの基準値にしたがってやると、時間がかかるんですよ。でもこっちとしてはもうこれでいいじゃない、みたいな。」

Q：「こういう時は A 妻さんと交渉して、自分の基準値を伝えますか。」

A 夫：「いや、だいたいごまかします。A 妻が怒りやすいから、正面からのケンカは避けます…。」

この会話から確認できるように、i の作業はおかた見えないが、A 夫はそれを認識し、「あれこれ考えずに済む」よう、意図的に妻に振り分けている。また、家事や育児の遂行に対する夫妻間の基準値が異なり、A 妻が A 夫より家事の質を高く求めていることも示してくれた。これと対応する形で A 妻の話があった。

A 妻：「お父さんは私のリクエストに応じて、『茶碗、洗ってね』って言ったら『はいはい茶碗洗うね』、『お父さん、洗った服を出してね』って言ったら『じゃ干していくわ』、みたいな、お父さんの目にはやるべきことが映っていないんですよ。毎回毎回ボタンを押さないと動いてくれないです。」「うちのお父さんは、いつも『何を急いでいるんですか』とか、『はいはい、後でね』とか。私はせっかちだから、何度も呼んだのに、(家事って) 連続しているものだから、いつまでもやってくれないと、私は自分でやるほうが早いんで

すよ。だからついついお父さんの仕事をやってしまっ。」

A 夫と妻の話から分かったのは、i の作業に関して妻のほうがいづ、何を、どこまでするかマネジメントしながら、夫に指示を出している役割遂行の様子である。A 妻のみが i の担い手である。夫を動かすための「ボタンを押す」作業とこれに付随するマネジメント作業は、妻にとって一つの負担である。夫は妻と家事や育児に対して異なる基準値を持っているため、時に妻が期待している量と質に満たすほどの作業をしていないことや、言われてすぐ動かないことがある。家事や育児に対してより高い基準値を持つ側が、率先的に役割遂行に移っていく可能性も見えてきた。

では、A のように妻だけが i を担う形ではなく、夫も妻も i の作業に関与している場合はどうなるか。F 夫と妻はどちらも家事育児の遂行を可能にする作業を意識的に担っているが、それぞれ家事と育児に重きを置く形で、夫が家事、妻が育児で分かち合っている。

F 妻：「(子どもが生まれて) 最初の時は、初めてお母さんになったんだから、絶対、私の子どもに一番いいものをあげないと、とか思っていましたね。今はそこまでしなくてもいいと思うんだけど。」「私が一番長く子どもに付き添う人ですから、子どももね、慣れた人になつくんじゃないですか。普段から子どもの状態、遊んでいる状態や勉強している状態を(私が)よく観察して。」「例えば(子どもが) 何かに専念しているときはできるだけそれを中断させないで長く続けさせるとか、こういう子育てのポリシーというか、こういうものも、子どもがいなくなるときに(祖母や夫と) コミュニケーションを取って統一させているんですよ。』

F 夫：「子どものね、勉強のこととかは基本的に嫁が管理しているんですよ。子どもの

考えを聞いてあげたりとか、どここの趣味クラス<sup>1)</sup>が面白そうだとか、そこは全部嫁がやってくれて、私と検討して、問題なさそうだったら子どもを通わせたりして。」「うちの嫁はあまり、家事が好きじゃないんですよ。気が向いたら整理整頓を少しするぐらいかなあ。まあ、私もあまり好きじゃないですけど、でも汚すぎるときとか、洗濯物をためていたとか、そういう時は私が見てやらないといけないんですよ。料理はわりと気持ち次第ですけど、二人だけなら外で食べに行くこともあったりして…」。

F 妻の語りから強く伝わってきたのは、「子どもにいいものをあげたい」ことである。子どものためになるポリシーを決める、子どもの様子を見てポリシーを調整する、自分のポリシーに従うように夫や祖父母と交渉するなど、i の作業は担当者の意思が現れるとともに、大量の作業を行う必要がある。同様に家事を主に担当する夫のほうも、どのタイミングで何をするか、どういう状況で外食するかなど、おそらくそこも F 夫なりのポリシーで導かれている。F 夫と妻の場合は、それぞれの担当分野を家事と育児で分けることにより、互いのポリシーをすり合わせる作業を省けている。

上記 A と F のデータが示してくれたのは、i の作業自体が一種の役割負担であり、日々子どもに付き添ったり家事に関心を寄せたりしないとなすことがむずかしい。それに、感知・思案とマネジメントをする際に、人によって何をどこまでするかに関する基準値が異なる。そのため、夫と妻がそれぞれの基準で ii の役割遂行に移す場合、より高い基準値を持つ人が尻を拭く作業、いわゆる iii の後始末作業を背負われる可能性が高くなる。これに対して F のように、夫と妻が共に i を担いあう場合、F 妻が実践していたように、一つの基準に統一する作業が必要である。こうした見えない作業はいずれも、その担い手しか気づいていない。

## (2) ii 役割を遂行する作業

実際の役割を遂行していく作業における、見えない部分に対する夫と妻の語りもその分かち合い方を再現している。例えばA夫は一見、朝子どもの身支度や食事の準備といった役割を担っている。ところがA夫にとって、「子どもに食べさせる」こと全般が自分の責任ではなく、子どもが家にいる間になんとかしてあげるだけが役割範囲だと思っていることが、次の会話から見えてくる。

Q:「お母さんの出勤は早いですね、朝お子さんのご飯はA夫さんが準備していますか？」

A夫:「そうですね、朝は私が担当しています。子どもにミルクをあけて、朝ごはんは抜きに。幼稚園に行ったらお菓子をくれるらしいから、それが朝ごはんの代わりに。」

Q:「お菓子ね。いつごろ食べさせてくれるんですか？何があるんですか？」

A夫:「さあ、知らないね。たぶんわりと早い時間帯じゃないですかね。」

こうして自分が実行している作業に対してのみ認識し、自分の役割遂行の価値を主張することは、とりわけ子育てに関することでよくみられる。週末、子どもを連れて遊びに出かけることを、B夫とB妻がそれぞれ次のように語っている。

B夫:「週末は趣味クラスとか行かない日に、公園とかにつれて、遊びに行きますね。」

Q:「そうですか。遊びに出かけるときは、こう、準備とか、どこに行くかとか、調べたりすることもB夫さんがしていますか？」

B夫:「いやそんなことは特にしていないですね。どこどこがおもしろいよとか、子ど

もが好きそうだよとか、そういうのを耳にしたら、別に調べておいてなんかなくても、すごく遠いところに行くわけでもないから。」

Q:「じゃ、遊ぶときはB夫さんもお子さんと一緒に遊んでいるという感じですか？」

B夫:「たまに家にいるときは家事を傍らでしたり、外でも子どもが自分で遊ぶから。たまに子どもがなついてくるけど、ちょっと抱っこしてやったら、わりとうちの子はおとなしいし、言うことも聞いてくれるから。」

こうしたB夫の話に対して、B妻の語りから妻のほうがいいろいろ工夫している様子が分かる。

B妻:「子どもはね、いま週末になると趣味クラスとか遊びに連れて行かないと、後コロナとかで授業が中止になった日も、なんかやらせておかないとタブレットばかりいじるんですよね。」

子どもの休み時間をより充実したものにするために、B妻は子どもの意見を聞きながら、おもしろそうで値段も高すぎないような趣味クラスを探し、入学手続きも済ませて、二人の子どもがそれぞれ充実した休み時間を過ごせるようにいろいろ調べていた。

B妻:「選んだ趣味クラスはちょっと時間も長めで、1時間半くらいあるんですよ。で、そのすぐ隣に遊園地があるから、そうしたら上の子を趣味クラスに送って、下の子を連れて近くの遊園地で遊ばせますから。お父さんにはこうした送り迎えをしてもらっているんですよ。」

B夫の話で出てきた「耳より情報」は、B妻が調べた結果かもしれない。こうしてB妻はiの作業として週末の手配をしているため、夫と子ど

もの送迎や遊びのお出かけに同行している場合、B 夫の役割遂行もより順調にできていただろう。

家事についての役割遂行は、見える部分しかやらない、というコメントはインタビューでよく聞かれた。夫の家事は消極的で、受動的に触発されるスキルだと D 妻が喩えながら言った。

D 妻：「家事は、普通は私がやることが多いのかなあ。彼の家事ってさあ、表面に浮いているんですよ、細かいところ見ないんですよ。」「例えばモップかけね、見える部分しかモップをかけないんですよ。だからすぐ終わって、彼のモップかけは早いんですよ。茶碗洗いも、本当にお茶碗だけを洗って、鍋は洗わないし、台所周り拭かないし、水槽も洗わないし。」「言えやってくれるんですけど、いちいち言うとうるさいと言われるし、でも言わない限りやってくれないというか、悪循環ですよ。」

このように、D 妻からは、見えないところもモップをかけてほしい、言わなくても茶碗洗いとともに鍋は洗ってほしいなど、夫の家事遂行に足りなさがたくさんある。でも D 夫は、床の汚れを見て自分はモップをかけていると主張し、見える汚れを処置したことで自分の役割遂行を評価している。

その時の、妻が後始末としてやり直す作業については、次節で整理する。ここでは、夫と妻のこうした基準値の相違として納得されている「見えない作業」の取り扱い方に関して、今回の調査では、夫妻間で折り合いをつけるのではなく、第三者に任せることで一部解消されている。

表 2 が示したように、ii 役割遂行の段階では祖父母や家事代行など、第三者が役割分担に加わり、一部の事例において主役を担うこともある。調査で夫と妻たちは、家事を丸ごと第三者に任せることで、得られた余裕で育児に取り組む傾向もみられた。その典型例として、祖父母も家事代行の力も積極的に生かして、夫妻が共に育児に取り組む

C 夫と C 妻の実践を取り上げたい。

C 妻：「うちの家事は基本、全部お祖母ちゃんに任せていますから。私も旦那さんも仕事忙しいほうだし、土曜日も大小休で出勤することがありますから。」「子どもの送迎とかもお祖母ちゃんがやりますね。今の家庭は確かに、お祖母ちゃんみたいな、仕事に縛られない存在が必要ですよ。」「お祖母ちゃんはわりとできる人で、送迎はきちんと時間通りにしてくれるし、(子どもの間食として)食べ物とか、飲み物とか、果物とか、全部用意してくれますし。」「ただ唯一、お祖母ちゃんと考え方が違う点は、清潔度に対する基準値ですね。お祖母ちゃんのほうが私たちより低いんですよ。ちゃんと整理ができていないとそれは、ね、乱れているのは目立つもんですから。でもそうリクエストすると『そこまではできない』と拒まれて。でもね、親も大変だから、やってくれるだけでえらいことなんだから。そこは家事代行をお願いして。」

そして C 妻の話によると、もともと彼女自身が生まれ育った家庭でもずっと家事代行の人がいて、祖母は家事をしないで済むような暮らしをしていた。だから整理整頓などのスキルを身につけるチャンスもなかった。これは、祖母の話し合いで C 妻が初めて意識したようである。これに関して C 夫は、プロの家事代行は祖母の手本にもなると位置付けている。

C 夫：「子どもがいるから、お祖母ちゃんはその面倒を見るし、遊び相手をするこゝともありますし、私たちのご飯も作りますし、やはり手が回らないときがありますよね。だからお祖母ちゃんのフォローとして家事代行を。」「もう一つはやっぱり、プロのほうがちゃんと綺麗にしてくれる、これはお手本というか、お祖母ちゃんも、『あっこうやってやるんですね』と、勉強して、今度お祖母ちゃん

もこうやってくれるとか。』

どこまで祖父母や家事代行の力を借りていいかの議論をさておきにして、ここまでC夫とC妻の話で示されたのは、夫と妻の間の役割分担と、夫妻以外の第三者との分担の相違である。まず、第三者という存在は、家庭生活を営む主要責任者である夫妻と異なり、一括に、もしくはその都度やるべきことや基準を伝えられる。家事代行はもちろん、祖父母も自分の子どもや孫のためになることを手抜きしないで素直に遂行していく。それに、C妻が言うように、やってくれるだけでありがたい気持ちのなかで、不満が生じにくい。夫にとっても妻にとっても第三者は他人であるからこそ、これまで夫妻間では見えない作業も、第三者の役割遂行として気づかれやすくなる。

### (3) iii 役割遂行後の後始末的作業

前節では、中国調査の特徴ともいえる第三者が役割遂行に加わることで、見えない作業が夫と妻の双方に気づかれると述べた。一方、こうした協力を得るため、家事代行サービスの依頼や仕事内容の説明がiの主な担い手である妻＝女性に偏ることが多い。それに、とりわけ祖父母の場合、関係の維持に工夫しているのも、ほとんど妻のほうであり、これらの作業が再び夫にとって見えない作業になっている。これは間接的に、家事育児の最終責任者が妻であること示している。

次のH妻の語りが示すように、祖母をあまり疲れさせない、祖母と良好な関係を保ち、夫や妻側・夫側の祖母の間の関係性を調整するのは、iii役割遂行後の後始末的な作業でありながら、i次の役割遂行を可能にするための準備作業でもある。これはiからiiiまでの作業が一貫しているからである。

H妻：「やはりお祖母ちゃんは、あまり教育を受けてきていないというか、しかもそっちの世代って、布のおむつを使っていたり、いまは紙おむつとかね、考え方もやり方も違うところがありますね。」「でもやっぱりすご

く感謝しているんですよ。毎月お金を渡す、とかじゃなくても、自分の母のように接していますし。おむつをちゃんとつけられていなくて、子どもの太ももにちょっとかすり傷ができて、なんかおおげさにしないし。だってお祖母ちゃんがいてくれないと、自分がどれだけ大変になるか!」「お隣さんにも私のことを褒められていますよ、旦那さんが(妻側祖母にとって)本当の息子のように、私も(夫側祖母にとって)本当の娘のようにと。」「一時期にね、両方のお祖母ちゃんが来てくれる時期があるんですけど、その時は(子どもが)九か月くらいだったのかなあ。それで外に連れていくと、服の厚さとか、なんか二人の意見がずれ始めますね。そうしたらやっぱり私が両方とちゃんと話し合っ、て、慰めて、お祖母ちゃんは一人居りで十分だから、(うちの一人に)いまは休んでおいてねとか、二人を分けていきますよ。」

このように、H妻が細かい事例をたくさん取り上げながら両方の祖母と関係の維持や自分自身の感情労働を述べているのに対して、H夫は自分が担当している子どもの教育を中心に話し、祖母については簡単な一言しかなかった。

H夫：「こっち側の仕事はお祖母ちゃんには無理ですよ。田舎の出身ですから、ちゃんと教育も受けていないし、文字も読めないですから。」

こうした人間関係の営みとしての後始末的な作業のほか、実際の行動として、次に示されるように、祖父母が子どものものの整理整頓と掃除、本来夫か妻が担当する家事がおろそかになったときの代替・補足などを行っている。

G妻：「うちの子は床で横になって遊ぶのが好きでね。だからリビングとかは敷物を敷いているんですけど、お祖母ちゃんが毎晩お

もちゃとかを片付けたら、敷物とかクッションとかを全部アルコールで消毒しますよ。』

C妻：「時々、本を最後まで読みたいときとかは、頑張って読むことにしますから、その時の家事はお祖母ちゃんがやってくれて。」

一方、祖父母の協力がなかった場合、iiiの後始末的な作業が完全に夫と妻の間でなされると、夫と妻の語りを組み合わせて片方がこれ以上の作業をしないと踏み切り、片方が後始末を引き受ける様子がより鮮明に見えてくる。

J夫：「妻は、文句があると思いますよ。そこまでやるべきだと（妻が）思っていて、でも当時（私はそれを）見ていないとか、気づいていないとかもあるわけなんですよ。だからね、何をやってほしいのかははっきり言ってほしい。私には別にやらなくていいこととか、後でやってもいいとか、そういうものもあるから。」「例えば家を綺麗に整理整頓することがね、もともとはなかなか認められないんですけど、いまの清潔度がね、でも子どもがいるから、（子どもが）寝て、整理して、翌朝がまだ散らかってしまうから、だからもういいやって。」

J夫の話からは、何をどこまでするかに関して自分自身の考え方がある、と伝わってくる。それに子どもが散らかったおもちゃなどを片付けるような後始末は、やっても終わらない作業として判断して、J夫はやらないことにした。こうしたJ夫が思いのままにできた裏側に、J妻のフォローがある。

J妻：「夫の家事は、なんだろう、表しかやらないというか、スポット的なんですよ。例えば家全体がめちゃくちゃであっても、汚れた一つのところだけを綺麗にするんですよ。

ね。全体をこうみて、何をするかって考えていないんですよ。」「まあ、私の基準値が高いかもしれないんですけど、夫では私の基準に満たせないんです。でも夫は夫の基準でいいから、残った部分は私がやります。誰もが基準値を持っていて、その基準値はだいたい違いますから。夫が夫の気持ちいいやり方でいいですよ。』

二人の話を照らし合わせばわかるように、J夫はiiまでを役割の範囲として捉え、そこからはみ出る作業をすべてJ妻が担うようになっている。J妻の基準値が高い「こだわり」の内実は、服を使いやすいように整理する、洗った茶碗を収納するなど、日常生活を支える基本的な作業にすぎない。こうしたJ妻によるiiiの作業の成果を、J夫が共有しているものの、その役割負担を見えない作業として気にせずにいられることが、本稿の枠組で示されていた。

## 5. まとめ

本稿は、同じ家庭で暮らす夫と妻が、家事や育児の分担・遂行に対する認識が異なることについて、さらに議論を深めるため、夫妻ペアのインタビュー調査の結果を「見えない作業」に着目して分析した。その際に、ii役割遂行そのものではなく、i遂行を可能にするための作業と、iii遂行した後の後始末的な作業も取り入れて、役割遂行を三段階で捉える分析枠組を用いた。分析の結果、次のことが明らかになった。

まず、三段階の枠組でみると、iとiiiの作業は夫妻のうちの片方（多くの場合は、妻）に偏っている。感知・思案やマネジメントは必ずしも実行に移らない、脳内シミュレーションも多いため夫と妻の両方に気づかれにくい。後始末的な作業は、そこまでしなくてもいいと思われがちで、夫妻の片方がそれを作業として認められないことが多い。近年の大規模調査で示された夫の家事育児分担の増加は、本調査の分析からみておそらくiiの役割遂行そのものに集中することが多い。夫はす

で役割遂行の環境が整われた状態で、頼まれたことだけを、できる範囲で遂行すればいいという意味で、比較的楽である。これは、夫と妻による、家事育児の遂行と分担の認識において現れてくる。

次に、このような三段階の枠組で夫と妻の役割遂行を整理することで、見えない作業に対する夫と妻の捉え方が異なり、それぞれ認識する家事育児という役割の範囲も異なることが分かった。iiの役割遂行だけをする人は、iとiiiの作業に気づかないことが多く、もしくは気にしなくていい立場にいられる。そのため、多くの場合、夫たちは自分がやった家事や育児の作業を中心に語るのに対して、家事育児を全体として把握している妻たちにとって、それは表面的な作業や、一部の作業にすぎない。夫と妻は、家事育児の異なる風景を見ている。

冒頭で述べた通り、本稿は役割遂行を操作的に三段階に分けたものの、この三段階の作業は実質的につながるものである。すべての役割遂行を支える基盤となる感知・思案とマネジメントを担う者が、遂行のプロセスも見つめつつ、十分遂行されていないときの補強加工からも逃れにくい。夫と妻が共に担う覚悟でiからiiiまでの作業をすべて共有しない限り、この一連の作業とそこに潜む見えない作業はどんどん夫妻の片方を排除していく。三段階の分析枠組で夫妻間の分担を検討することにより、なぜ家事育児は片方に偏りやすいか、そしてなぜ他人との分担を通して家事育児が平等になることが実現しにくいかが示された。ここで新たに描き出された夫と妻が置かれている異なる状況は、役割遂行の連鎖に巻き込まれる人と、そこから逃れ・排除されていく人のアンバランスである。

最後に、これは中国調査の特徴でもあるが、現在夫と妻の家事育児は、iiの役割遂行の段階においては祖父母や家事代行など第三者の力を借りて、複数の担い手でともに遂行している様子が見えた。この分担の形を可能にしたのは、夫か妻の

片方が家事育児の全般をマネジメントする責任者になり、第三者に限られた役割を任せるやり方である。中でも比較的家事役割を第三者に任せることが多く、夫と妻がこれによって日常生活の余裕が得られ、より育児に専念することができていた。これは、大人二人だけで家事育児を行う大変さを、逆照射で示すものである。一方、子育てに関して夫と妻が自らやらないといけない裏には、夫妻と第三者との間に、子育てに関する理念ややり方の相違が存在していると推測できる。これと同じように、第三者がいない場合、夫と妻で家事を分かち合う時も、それぞれの基準値をすり合わせる必要がある。ここでは、夫と妻のそれぞれが、家事育児に何を、いつ、どこまで、どのようにするかという「秩序」をいかにこの三段階の役割遂行を分かち合う中で構築していくかが、次の段階で検討を深めていく課題である。

## 注

本研究は若手研究「家事分担をめぐる調整：未就学の第1子を持つ夫妻のペアデータを用いた実証研究」（課題番号 21K13413 研究代表者：孫詩彥）の一部である。

1) 趣味クラスとは、アート・音楽・クラフト・言語など、子どもに体験させるクラスのことである。

## 参考文献

- 孫詩彥 (2022a) 「家庭役割の分担と遂行に対する夫と妻の認識：料理をめぐる夫妻ペア調査の結果報告」教育福祉研究 26：1-12
- 孫詩彥 (2022b) 「夫妻の役割分担はなぜ調整しにくい？ 予期せぬ出来事をめぐる夫と妻の捉え方に着目して」『第18回生協総研賞助成事業研究論文集』：14-29

(北海道大学創成研究機構・  
大学院教育学研究院 特任助教)

